

令和元年度 学校経営シラバス

めざす学校像	めざす生徒像
地域の担い手育成高校 (1) 様々な教育活動において地域との連携を深化させ、地域の信頼を高める (2) 「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む (3) 生徒の自主性・自立性の伸張を図り、自己指導能力を育成する	「志」を持ち、「生きる力」を身につけた生徒 (1) 挨拶・言葉遣い・身だしなみ・日常生活におけるモラルを身につける (2) 「志」を持ち、目標に向かって主体的に取り組む (3) 健全な自尊心、自己肯定感を高め、「生きる力」を習得する

■教育活動については、「目標」と「目標達成のための視点」をもとに、分掌、年次、委員会等においてシラバスを策定する。

領域	対象	目 標	目標達成のための視点
教育 活 動	学習指導 「学び」	○学ぶ意欲を喚起する授業方法・内容の工夫（授業改善による授業力の向上）	(1) 授業改善（主体的・対話的で深い学びの実践） (2) 朝読書 (3) 各種研修からの情報共有、研鑽
		○「北高スタンダード」の実践を通じた学習意欲の喚起、授業規律の確立と基礎・基本の定着	(1) 「北高スタンダード」の実践・定着 (2) 学習状況調査等の分析・活用 (3) 学習評価
		○家庭学習の励行及び促進の工夫（授業改善等による学ぶ意欲の喚起）	(1) 授業改善及び教材等の改善、ICTの活用 (2) 各種通信等の活用、面談
		○シラバス、授業評価結果の活用	(1) シラバスの定期的な活用（育成を目指す資質・能力の明確化） (2) 授業アンケート結果の分析・活用 (2) Web ページ・各種通信等の活用
	生徒指導 「豊かな心」	○情報の共有を徹底し教職員の共通認識理解に基づく指導を通じた個々の生徒の課題解決の支援	(1) 分掌主導での共通した指導 (2) 教育相談 (3) Hyper-QU 等の分析・活用・情報共有
		○生徒指導の機能を活かした基本的生活習慣の確立、自己指導能力の育成	(1) 挨拶・言葉遣い・身だしなみ・日常生活におけるモラルの定着 (2) 安易な遅刻・早退の抑止
		○社会とのつながりを意識させる生徒会活動の展開	(1) 生徒会の主体的な活動 (2) 地域や異校種等との連携（シチズンシップ）
		○個に応じた特別支援、教育相談の方策及びそれを支える校内体制の充実	(1) 特別支援教育の推進、関係機関との連携 (2) 教育相談
	キャリア ・ 進路指導 「社会人」	○生徒個々の実態に応じた多面的なキャリア学習の充実	(1) キャリア教育年間計画の実践 (2) ソーシャル・スキル・トレーニング (3) インターンシップ
		○地域資源の有効活用による「地域貢献」を意図したキャリア学習の展開	(1) 「地域探求」「課題研究」等の実践 (2) Web ページ・各種通信等の活用
		○生徒の多様な進路実現を可能とする組織的・計画的・効率的な講習等指導体制の整備、充実	(1) 平常時及び長期休業中の講習実施
		○多様な入試方法の活用、新しい大学入試制度に対応した進学指導方針、方法、体制の検討、整備、充実	(1) 正確で迅速な情報提供 (2) 各種通信等の活用、面談
		○各種資格取得の奨励と指導の強化	(1) 資格取得のための講習実施
	健康・安全指導 「安全・安心」	○生徒が自立して健康管理を行える組織的・計画的な指導	(1) 「ほけんだより」の発行、掲示物の活用 (2) 個別の保健指導、健康観察 (3) 講話等の計画・実施
		○生徒個々の自尊感情・自己肯定感を高める取組の推進	(1) 心の健康問題の早期発見 (2) 適切な自己認知を促す関わり
		○いじめ防止を含む人権尊重意識を高める取組の推進	(1) 定期アンケートの実施・分析 (2) ネットパトロール (3) 講話の計画・実施
○生徒の実態を把握するアンケートの継続実施		(1) Web ページ・文書等 (2) 玄関・巡回指導、情報共有 (3) 教育相談	

■学校運営については、管理職が主導する項目と、管理職が部長(主任)や委員長等に具体の対応を依頼する項目がある。

領域	対象	目標	今年度の目標	今年度の目標達成のための評価の観点
学校運営	地域に信頼され必要とされる学校「信頼」	・中学生にとって選ばれる、地域にとって必要とされる学校	(1)法令遵守、服務規律の保持・徹底 (2)あらゆる不祥事、不適切な行動(行為)の未然防止 (3)「報告・連絡・相談・確認・結果報告」の徹底 (4)地域、保護者への情報発信及び新たな情報発信の方法の検討 (5)生徒の地域行事等への参加	(1)、(2)、(3)職員打合せ、職員会議等において情報提供、啓発、研修を行ったか。 (4)「八穂の星」年2回発行、「HP」は担当箇所により適宜更新するなど、常に新しい情報提供を行ったか。 (5)地域社会の一員として、地域の行事やボランティア活動に参加できたか。
	キャリア教育等を通しての地域との連携「地域連携」	・地域との連携を深化させ、地域資源・地域人材の活用の推進	(1)キャリア学習等において講師・企業等、地域資源・人材等を理解・協力を得ながら活用する。	(1)地域の理解と協力を得ながら、地域資源・人材の活用ができたか。
	組織運営「チーム北高」	・分掌主導による統一した指導の推進	(1)分掌、年次団が組織として力を合わせて業務を推進する。 (2)教職員がひとつのチーム「チーム北高」として、協働して業務を遂行する。 (3)カリキュラム・マネジメントの推進 (4)時間外勤務を削減する。	(1)各組織において、分担及び協働を推進できたか。 (2)(3)全教職員が協働して、業務を遂行できたか。 (4)北海道アクション・プランに基づき定時退勤日、閉庁日等を設定・実施し、ワークライフバランスの視点を取り入れ、意識改革を図ることができたか。
		・危機管理の徹底	(1)危機管理マニュアルを整理・確認する。 (2)心と体の健康に配慮する。 (3)全教職員が日常的なコミュニケーションを行うことにより、相談しやすい環境づくりを行う。	(1)校内研修(全体研修)で周知、確認できたか。 (2)(3)管理職面談、相談の機会を適宜設定できたか。
	教職員の資質・能力向上「教師力」	・教員・教師としての成長(校内研修)	(1)教務部主管により、授業公開週間を前後期の年2回計画し、北高スタンダードの2つの観点に沿って実施する。	(1-1)それぞれの回での目的を達成し、授業改善に繋げることができたか。 (1-2)全員が研究授業を実施できたか。 (1-3)全体研修会を実施し、次年度への課題を確認できたか。
		(校外研修)	(1)校外で実施される研修会や研究会に参加する。 (2)研修報告書を作成し、全教職員に還元する。	(1)各種研修会等の情報提供を行い、積極的に参加する機会を提供できたか。 (2-1)参加者の研修成果を全職員に還元できたか。 (2-2)年度末に「研修報告書のまとめ」を作成できたか。
			(1)「学校職員人事評価シート」を活用した面談を実施する。	(1)面談を複数回実施し、指導に係る業務と校務に係る業務について協議できたか。
地域異校種との連携「繋・励」	・異校種連携による情報交換、教員交流、部活動連携等の推進	(1)様々な場面において、せたな・今金両町の小中学校との交流を推進する。 (2)檜山中高連での公開授業を計画・実施する。	(1-1)各種研究会等を通して、情報交換等を行うことができたか。 (1-2)部活動やボランティア活動等を通して、交流を深めることができたか。 (2)檜山中高連での公開授業を予定どおり行うことができたか。	